

みずほマーケット・トピック(2025 年 1 月 24 日)

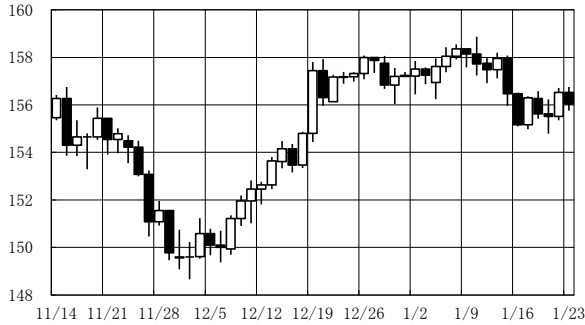
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・ 今週のドル/円は156円を挟みレンジ推移した。週初20日、156.30円でオープンしたドル/円は一時155円台後半へ下押しするも、直ぐに156円台を回復。海外時間は、156円台半ばへじり高後、米新政権の関税政策発動見送り報道を受け155円台半ばへ急落。その後、トランプ米大統領就任演説をこなしつつ、155円台後半を中心に方向感なく推移した。21日、ドル/円はトランプ氏がカナダとメキシコへの関税賦課に言及し、ドル買い相場の中で156.24円に急伸。その後急速な巻き戻しで一時週安値となる154.78円に急落後、155円台半ばに値を戻した。海外時間は、米金利動向に振らされる展開の中、155円台後半を中心にレンジ推移した。22日、ドル/円はトランプ氏による対中関税関連発言を受けて156円手前に上昇。海外時間は、米金利上昇が材料視され156円台後半に続伸した。23日、ドル/円は日本株上昇と共に一時週高値となる156.76円に上伸。海外時間は、米経済指標の弱い結果やトランプ氏による利下げ要求報道を受け156円を割り込む展開。引けにかけては、156円台を回復した。本日のドル/円は、引き続き156円台前半で取引されている。
- ・ 今週のユーロ/ドルは週初に上昇、その後は1.04を挟んだレンジ推移に終始した。週初20日、1.0281でオープンしたユーロ/ドルは米新政権の関税政策発動見送り報道を受け、ドル売りが加速する動きに合わせて1.04台に乗せた。21日、ユーロ/ドルはトランプ氏の関税関連発言を意識した市場心理悪化が重しになり1.03台半ばまで下落する場面もあったが、その後は米金利低下が下支えとなり1.04台を回復して引けた。22日、ユーロ/ドルは米金利動向に合わせて概ね上に往って来いとなった。欧州時間には、一時週高値となる1.0457を付ける場面があった。23日、ユーロ/ドルは米経済指標の冴えない結果やトランプ氏発言に振らされつつも、1日を通して1.04付近を中心として方向感なく推移した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.04台前半で取引されている。

		前週末	今 週				
		1/17(Fri)	1/20(Mon)	1/21(Tue)	1/22(Wed)	1/23(Thu)	
ドル/円	東京9:00	155.36	156.30	155.28	155.73	156.45	
	High	156.37	156.56	156.24	156.71	156.76	
	Low	154.98	155.41	154.78	155.36	155.75	
	NY 17:00	156.30	155.68	155.52	156.52	156.07	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0301	1.0281	1.0420	1.0406	1.0409	
	High	1.0330	1.0435	1.0435	1.0457	1.0437	
	Low	1.0266	1.0267	1.0342	1.0394	1.0372	
	NY 17:00	1.0271	1.0417	1.0428	1.0410	1.0416	
ユーロ/円	東京9:00	160.07	160.71	161.70	162.12	162.75	
	High	161.00	162.23	162.20	163.21	163.11	
	Low	159.74	160.41	160.97	161.96	162.23	
	NY 17:00	160.45	162.05	162.10	162.96	162.49	
日経平均株価		38,451.46	38,902.50	39,027.98	39,646.25	39,958.87	
TOPIX		2,679.42	2,711.27	2,713.50	2,737.19	2,751.74	
NYダウ工業株30種平均		43,487.83	-	44,025.81	44,156.73	44,565.07	
NASDAQ		19,630.20	-	19,756.78	20,009.34	20,053.68	
日本10年債		1.20%	1.19%	1.18%	1.19%	1.20%	
米国10年債		4.62%	-	4.57%	4.61%	4.64%	
原油価格(WTI)		77.39	-	75.83	75.44	74.62	
金(NY)		2,748.70	-	2,759.20	2,770.90	2,765.00	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、28日(火)～29日(水)にFOMCが開催される。12月会合は▲25bpの利下げを決定も、ドットチャートやパウエルFRB議長会見などを踏まえれば、「タカ派的な利下げ」という表現が妥当だ。今月8日に公表された議事要旨を確認しても緩和ペース減速や慎重姿勢が強調されており、金利先物市場でも1月会合の現状維持が予測されている。注目は議長会見だが、質疑応答は新政権の各種政策に関する話題が多くなりそうだ。この点12月会合の経済見通しは、トランプ政権での政策(の仮定)が一部織り込まれていることが議事要旨で判明した。足許では第2次トランプ政権誕生後、数多くの政策が公表されている。12月時点における想定からの乖離を確認することが1月会合で最も重要な作業になろう。
- 欧州では、30日(木)にECB政策理事会が開催される。12月会合は、▲25bpの利下げを決定。声明文は、「政策金利を十分に引き締めた水準に維持する」とする文言が削除されたことが話題を集めた。政策金利水準が引き締めのとは言えない水準に到達しており、今後は2%未満へのアンダーシュートも視野に入れる必要性が示唆されたと解釈できよう。以降、ECB高官からも利下げ路線を主張する情報発信が相次いでおり、1月会合における利下げ継続もほぼ既定路線だ。ただし、一部の高官がここまでのエネルギー価格上昇やユーロ安への懸念を言及していることも無視できない。状況が悪化すれば、ECBは弱い実体経済と下げ止まり(ないし反発)するインフレの両面に立ち向かう必要に迫られる可能性がある。

	本 邦	海 外
1月24日(金)	12月消費者物価指数 1月製造業/サービス業PMI(速報) - 植田日銀総裁会見	- ユーロ圏1月製造業/サービス業PMI(速報) - 米1月製造業/サービス業PMI(速報) - 米1月ミシガン大学消費者マインド(確報) - 米12月中古住宅販売件数
27日(月)	11月景気動向指数(速報)	- 独1月IFO企業景況感指数 - 米12月新築住宅販売件数
28日(火)	12月企業向けサービス価格指数 12月工作機械受注(確報)	- 米12月耐久財受注(速報) - 米1月コンファレンスボード消費者信頼感 - 米FOMC(29日まで)
29日(水)	- 日銀金融政策決定会合議事要旨(12月会合分) 1月消費者態度指数	- 米12月卸売在庫(速報) - 米パウエルFRB議長会見
30日(木)		- ユーロ圏10～12月期GDP(速報) - ユーロ圏12月失業率 - ユーロ圏ECB政策理事会 - 米10～12月期GDP(速報)
31日(金)	12月失業率/有効求人倍率 1月東京消費者物価指数 12月小売売上高 12月鉱工業生産(速報)	- 独1月消費者物価指数(速報) - 米10～12月期雇用コスト指数 - 米12月個人所得/支出 - 米12月個人消費支出デフレーター

【当面の主要行事日程(2025年1月～)】

FOMC(1月28～29日、3月18～19日、5月6～7日)

ECB政策理事会(1月30日、3月6日、4月17日)

日銀金融政策決定会合(3月18～19日、4月30日～5月1日、6月16～17日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年1月23日	ユーロ安の影響に言及したラガルドECB総裁
2025年1月22日	ワンノッチは解消されたのか～日銀プレビュー～
2025年1月21日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年12月分)
	就任演説を受けて～気になる原油価格の今後～
2025年1月17日	週末版
2025年1月15日	「NISA貧乏」もインフレ税の結果
2025年1月14日	サービス収支赤字の長期試算～赤字▲10兆円の常態化か？～
2025年1月10日	週末版
2025年1月9日	円金利上昇でも円安～恐れていた事態～
2025年1月8日	早速、パリティ割れを視野に捉えるユーロ/ドル相場
2025年1月7日	ブラックスワンとしての「ブラザ合意2.0」を考える
2025年1月6日	25年、円相場見通しポイント整理
2024年12月24日	家計金融資産の現在地～進んだ「貯蓄から投資」～
2024年12月20日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～円相場は1月まで持つのか～)
2024年12月19日	FOMCを終えて～やはり高そうな中立金利～
2024年12月18日	ドル覇権への挑戦と第二次トランプ政権
2024年12月16日	スイスフランと円の差を考える～貿易収支の大きな違い～
2024年12月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年11月分)
	週末版(ECB政策理事会を終えて～目指すは中立金利以下か？～)
2024年12月11日	本邦大手保険会社の海外企業買収報道を受けて
2024年12月10日	続・円相場の需給環境について～25年ポイント補足～
2024年12月9日	2025年見通しのポイント～金利編その②～
2024年12月6日	週末版(流動化する欧州政治とユーロ相場～内憂外患そのもの～)
2024年12月5日	2025年見通しのポイント～金利編その①～
2024年12月3日	2025年見通しのポイント～需給編その②～
2024年12月2日	2025年見通しのポイント～需給編その①～
2024年11月29日	週末版
2024年11月28日	英国ISAと新NISA、資本逃避を巡る似て非なる悩み
2024年11月27日	目標にすべきではない「実質賃金の上昇」
2024年11月25日	2年ぶりに注目されるユーロ/ドルのパリティ割れ
2024年11月22日	週末版(史上最大の妥結資金も利下げ路線に影響なし～ユーロ圏7-9月期妥結資金を受けて～)
2024年11月21日	混迷が極まるドイツの政治・経済情勢
2024年11月19日	ECB政策理事会議事要旨を受けて～12月利下げの読み筋～
2024年11月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年10月分)
	日銀にとって「渡りに船」となる好調な個人消費
2024年11月15日	週末版
2024年11月14日	「家計の円売り」は腰折れたのか？
2024年11月13日	内外物価格差で感じること～欧州を訪れて～
2024年11月12日	トランプ2.0で「仮面の黒字国」が主張すべきこと
2024年11月11日	弱まる「実需の円売り」vs. 強まる「投機の円売り」
2024年11月8日	週末版(ナローパスに嵌まるFRB～「トランプ2.0はインフレ2.0」～)
2024年11月1日	週末版
2024年10月28日	総選挙を終えて～「デフレ脱却」はもう刺さらず～
2024年10月25日	週末版(政治不安とトリプル安～政局不安で「日本売り」なのか？～)
2024年10月23日	アコード修正という物価高対策～最もイージーな一手～
2024年10月22日	投機の円ロングはあと半分～問題はその後～
2024年10月21日	衆院選を受けた金融市場の想定～メインとリスク～
2024年10月18日	週末版(ECB政策理事会を終えて～対照性強まるユーロとドル～)
2024年10月17日	インフレ率「0%超」目標をどう受け止めるか？
2024年10月16日	スルーされた台湾有事～やはりなかった「リスクオフの円買い」～
2024年10月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年9月分)
	不透明過ぎる11月FOMC～1年後が気がかり～
2024年10月11日	週末版
2024年10月10日	世論が望むのは「デフレ脱却」ではなく「インフレ脱却」
2024年10月9日	失速が目立ってきたユーロ圏の経済・金融情勢
2024年10月8日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2024年10月7日	円の基本シナリオに変更の必要は？～雇用統計を受けて～
2024年10月4日	週末版
2024年10月3日	日銀短観(9月調査)と日銀の「次の一手」
2024年10月2日	外貨準備構成通貨の近況について(2024年6月末時点)
2024年10月1日	「石破カラー」は当面お預け～「3年でデフレ脱却」の不安～
2024年9月30日	石破政権が市場にもたらすのは希望か、失望か
2024年9月27日	週末版(145円到達と日銀の「次の一手」～それでも「時間的な余裕はある」～)
2024年9月25日	家計資産の外貨比率は過去最高～避けたい日本版トラスショック～
2024年9月24日	改めて考える日銀10月利上げの難易度
2024年9月20日	週末版
2024年9月19日	FOMCを終えて～思い出される棚代論と今後～
2024年9月18日	自民党総裁選～各候補の立ち位置と変わらぬ前提～
2024年9月17日	円高の背景にある需給改善～金利差に限らず～
2024年9月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年8月分)
	週末版(ECB政策理事会を終えて～予定通りも25年以降の不透明感強く～)
2024年9月11日	ECB政策理事会プレビュー～問題は2025年以降～
2024年9月10日	衰えなかった家計部門の投資意欲～資産選別の兆候も～
2024年9月9日	デジタル赤字にまつわる誤解～米国独り勝ちというバイアス～
2024年9月6日	週末版
2024年9月5日	ドイツ産業空洞化とユーロ相場について
2024年9月4日	いよいよ注目され始めたドイツの産業空洞化
2024年9月3日	大混乱から1か月～市場は安定を取り戻したか？～
2024年8月30日	週末版
2024年8月29日	日銀の自然利子率推計について～「中立金利1%」説～
2024年8月27日	ドル売りの持続性は？～買われるユーロ、英ポンド、円～
2024年8月26日	パウエル講演を受けて～気になる労働市場への評価～
2024年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～ユーロ相場の先行きについて～)
2024年8月21日	円ロングの積み上げが続くリスクはあるのか
2024年8月20日	企業買収を通じた対内直接投資の現状について
2024年8月19日	財PPP vs. サービスPPP～正しいのは円安か、円高か～
2024年8月16日	週末版(欧州経済の現状について～人手不足から需要不足へ～)
2024年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年7月分)
	ポスト岸田の考え方～金融政策の大勢に影響なし～
2024年8月14日	24年上半期の需給環境について～ほぼ均衡～
2024年8月13日	投機が去った円相場～注目は「家計の円売り」へ～
2024年8月9日	週末版(「円安バブル」報道について②)～2005-07年との比較分析～)